

tam tam

2023.05
VOL. 22

P1 【特集】
市民活動団体の法人化、その実際とは

P2 【特集】法人化を進めるときに気をつけること
団体インタビュー「法人化してみて」

P3 隣の自治協さん「美和地区自治振興会」
丹波市民、学びの窓「ChatGPTに聞いてみた!」

P4 繋ぐ!市民活動「丹波サイクリング協会」
活動事業者紹介「アシタメディカルパートナーズ」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

市民活動団体の法人化、その実際とは



左上から理事会、総会、センター主催の法人化勉強会。団体の法人化に向けては様々な場で協議を重ねる必要がある。

市民活動支援センターには、様々な相談が寄せられます。その中には、市民活動団体の法人化や法人の実務についての相談も多くあります。

今回は、地域づくりや公益性の高い活動をしている団体を想定した特定非営利活動法人、一般社団法人を中心に、法人化の必要性や検討の重要性、法人化を検討している団体の実態について、掘り下げていきます。

法人化を考えるきっかけとしては、「他の団体も法人化しているから」や、「取り組む事業に法人格が必要」などの理由があげられますが、そういった視点も大切であるものの、団体が目指

していること、やりたいこと、法人格が本当に必要かどうかについて、団体内で十分に考えることの方が大切です。

また、様々なある法人格の特徴を理解し、どの法人格が団体に適しているかを検討することも、法人化に向けた最初の一歩になります。同じ非営利法人である特定非営利活動法人と一般社団法人でも、活動範囲、情報公開の義務、設立手続き、運営面など様々な違いがあります（法人化で営利法人を選択することも可）。

「法人化」を団体の叶えたい未来を実現するための「手段」の1つとして、まずは団体内での話し合いから始めてみましょう。



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 法人化を進めるときに気をつけること

法人化を進める際に気をつけなければならないことは、一部の人で準備や手続きを進めてしまうことで、メンバー内での理解や情報共有が不十分なまま、法人化すること自体が目的になってしまうことです。そのような場合、検討段階や法人になってからつまづくことが多くなりがちです。設立に必要な準備は、定款や事業計画などの書類作成、登記や税務に関する手続き、設立後の実務対応に至るまで内容は多岐に渡ります。時間がかかることを想定しつつ、団体の目的や叶えたい未来、メンバーの思いなどを共有しながら、進めていくことが大切です。

Topics 02 団体インタビュー「法人化してみてもうですか？」

特定非営利活動法人佐治倶楽部

青垣地域で、地域の空き家活用を中心とした地域再生やネットワークづくりに取り組み、2021 年度に法人化。きっかけは、事業の本格化や、自治協議会、行政との協働、補助金申請などで必要になったため。「検討過程では、法人化を積極的に進める理事の他に、様々な領域に携わるメンバーみんなが納得できることを重視し、法人化の勉強会などを開催したり、丁寧な話し合いを重ねた」

(事務局：植地惇さん)



移住推進で地域・行政と協働

特定非営利活動法人スマイルポケット

丹波篠山市で、子育て世帯や子どもの居場所づくり、お弁当お届け事業などに取り組み、2022 年度に法人化。主なきっかけは、事業受託に伴い法人格が必要になったため。「もともと法人化には検討・協議・準備のための時間が必要だと想定していた。忙しいメンバーと共に 1 年半かかり、想定以上だった」

(代表理事：中村伸一郎さん)



ツキイチのお弁当お届け事業

スポーツクラブ 21 氷上東

丹波市立東小学校区（生郷地域）を中心に、子どもたちのスポーツクラブ活動、地域での住民や会員による書道教室や手作り教室、スポーツフェスティバルなどのイベントを開催。部活動の地域移行の受け皿となることや、助成金を活用したスポーツイベント事業の拡大などを目指し、現在、法人化に向けた検討中。「関わる全員が同じ目線で進めていくのは簡単ではないが、法人化に向けた勉強会を通し、団体の目指す方向や思いの理解を深めて進めていきたい」

(理事：藤原亨さん)



東小学校で生郷まちの灯りフェスティバル開催

組織の規模が大きい団体はもちろん、少人数で活動する団体でも、メンバー 1 人ひとりの理解と納得は欠かせません。また、法人化に要する期間は団体によって異なります。自分たちで準備し納得できる時間を持つことができるかどうかは、その後の組織づくりにも重要なプロセスになるのではないのでしょうか。

話し合いを重ねる中で、法人化は必要ないという結論になることもあります。団体の目的、メンバーの思いの実現には法人化以外にも、情報発信の強化、ボランティア人材の確保、他の組織との連携・協働などの手段、選択肢もあります。団体の叶えたい未来から、これからの可能性を考えてみませんか。

隣りの 自治協 さん

TONARI no
JICHIKYO san

美和地区自治振興会

市外からの来訪者も多い、歴史深い地区

美和地区自治振興会（以下、振興会）は、市島地域の三輪小学校区にあり、人口約 1,600 人、約 520 世帯、9 自治会で構成されています。地区名である美和の由来は大化の改新の時代までさかのぼることができ、当時の地名が今日まで脈々と受け継がれているたいへん歴史深い土地柄です。美和地区は山を隔てて春日や氷上と隣接しており、自動車が普及する以前は、徒歩で峠を越える人々の往来が盛んであったそうです。

近年は、キャンプリゾート施設「森のひととき」や、サッカー競技場「アスコザパーク丹波」ができ、市外から訪れる人も多くなりました。また白毫寺の「九尺藤」は丹波市内でも有数の観光スポットとなっており、5 月の見頃には遠方からの大型観光バスが訪れるなど賑わいを見せています。

つながりを生み、持続可能な地域を目指して

コロナ禍では、年始のつどい、ふれあいサロン、アグリフェスタ等の開催が見送られました。そんな中で住民の声や振興会会長の方針もあり、昨年度から徐々にイベントを再開。3 年ぶりに開催したアグリフェスタでは、以前を上回る大勢の人出で賑わいました。開催前には慎重な意見もあり、振興会役員の間でも不安もありましたが、開催してみると「地域のつながりを生む大切な催しである」と改めて認識することができたそうです。

一方で、住民の少子高齢化による担い手不足・生活様態の変化などから、これまでのイベントすべてをそのまま続けていくのは負担が大きいため、この機会にイベントの見直しを進めています。住民の声に耳を傾けることを重視し、より必要とされる取り組みに注力することで、持続可能な振興会の姿を模索しています。



今年も見事に咲き誇る「九尺藤」



ライトアップ時にはまた違った姿を見せる

丹波市民、学びの窓

ChatGPT に聞いてみた！

ChatGPT は、質問に対して AI が回答してくれるサービスです。今回は実際に ChatGPT を活用して記事を作成してみました（ChatGPT が答えた内容を一部正しい日本語に修正して掲載しています）。

Q. ChatGPTを利用する際の注意すべき点と利用するときのコツを、具体的かつ小学生にも理解できるように説明してください。

【注意点】

1. 自分の個人情報や第三者の機密情報はChatGPTに提供しないでください。
2. ChatGPTは自動応答システムであり、回答が 100% 正確であるわけでは

ありません。専門分野については、専門家に相談することが大切です。

3. インターネット上の情報はすべて信用できるわけではなく、ChatGPT の回答を利用する際には信頼性の高い情報源から得られた情報であるかどうかを確認するようにしましょう。

【コツ】

1. 具体的かつ簡潔に質問することが大切です。例えば「犬のしつけ方法は？」ではなく、「トイプードルのしつけ方を教えてください」という具体的な質問にすると、回答も具体的になります。
2. ChatGPTの回答が分からない場合は、追加質問をしましょう。「もう少し詳しく教えてください」と問いたり、

「これってどういう意味ですか？」と尋ねたりすることで、理解できるようになります。

3. 質問する前には、関連するキーワードをリストアップしておくことで、より効率的な質問ができます。また、複数回の質問をすることで、より深い知識を得ることができます。

ここまでがChatGPTの回答でした。ChatGPT を上手に使うには質問の仕方に工夫が必要です。また、回答の正確さには課題があります。使い方に注意すれば便利に使えるサービスです。ぜひ一度お試しください。



LINE でも ChatGPT が利用できる



繋ぐ! 市民活動

丹波サイクリング協会

「丹波の食・文化・人の魅力が伝わる自転車イベントをやりたい」その一言から市内在住の自転車好きの男女が2018年2月に集まりました。その後、夜な夜な会議を重ね、お互いのやりたいことや少し先の地域の姿を話し合う中で、丹波サイクリング協会を設立しました。丹波路をスポーツサイクルで走り、サイクリストを案内しながら、丹波の魅力を発信し続けています。

協会では、マップ製作、スタンド（自転車置き）製作、試乗体験・メンテナンス講習イベントなどを実施、市内外の自転車に熱中している人から興味があるだけの人まで、幅広くアプローチしています。

また、参加者を少人数のグループに分けて、案内しながら地域を走るアテンドライドでは、地元の人でも通らないような小道に潜む小さな発見や気持ちよさを体感できます。

今年度は、大阪・関西万博に向けた兵庫県との取り組みとして「SDGs 体験型地域プログラム」に認定されました。1日1組限定で、参加者に合わせて、コース、体験内容、自転車も含めた道具レンタルを用意。地元のガイドが四季折々の魅力を伝え、案内するポイントでは住民と交流できる工夫も準備しています。

自転車の愛好家だけではない、広く地域のために、活動開始から5年を迎え

た丹波サイクリング協会は、次のステージを見据えて走ります。



季節に合わせたライドイベント



地元の事業者の声を直接届ける



活動事業者紹介

医療法人社団 アシダメディカルパートナーズ

(訪問リハビリテーション/介護のトビラ)

2010年に柏原に開院した、あしだメディカルクリニック。住み慣れた環境で暮らし続けられるよう内科医療だけでなく、高齢化に対応した訪問医療や介護事業も手掛けています。その1つ、「訪問リハビリテーション（以下、訪リハ）」は、現在責任者である長澤和司さんがご家族の入院後の経験から「リハビリしやすい環境が市内に不十分」というターニング点で、5年前にスタートさせました。訪リハについて理解を広げながら、現在は6人のスタッフと市内全域で対応しています。

「リハビリとは、元の身体機能を取り戻すイメージかもしれませんが、機能を

維持する、又は落ちるペースをゆるやかにすること。身体だけでなく、今の環境で暮らし続けられるサポートも含みます」と語るのは、スタッフである作業療法士の長尾歩さん。例えば、自宅内でよく踏く段差を解消したり、家具配置を変えたりすることもあり。訪問時に病気の予兆に気づき、医療につながることもあると言います。

自分や家族で限界になるまで我慢しなくても、その人・その時に必要な介護につながるができるよう、2022年にはコモレ丹波内に介護保険・介護サービスにつながる相談窓口「介護のトビラ」

を開設。待つだけでなく、地域の高齢者の集まりや会合等にも出向きながら、介護保険・専門職と住民とをつなぐことにも力を入れています。



買い物ついでに相談できる「介護のトビラ」
(コモレ丹波内)



住み慣れた地域での暮らしを支えるために
その人にあった訓練を提供します



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。